

授業科目	老年看護実習 2	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、鳥谷めぐみ、他		
概要	加齢と疾病により病院または施設において療養生活を送る高齢者を受け持ち、その人らしい自立した生活を支援するために必要な看護を実践する能力を養う。具体的には、加齢や疾病のみならず高齢者のそれまでの人生が生活機能に与える影響にも着目し、その人の生活習慣や価値観などを尊重し持てる力を活かす看護を実践する。また高齢者の療養生活を支える各種施設や関連職種との連携、看護実践のなかで生じる倫理的課題における看護の役割について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者やその家族との援助関係を築くことができる。 2. 加齢による変化と疾病を抱えた高齢者の日常生活の状況をアセスメントし、高齢者の強みを活かした看護計画を立案し、実践について評価することができる。 3. 高齢者に対し安全・安楽を考慮した看護援助の実践ができる。 4. 医療・福祉サービスなどの関連職種との連携の重要性を理解し、チームの一員として行動できる。 5. 高齢者やその家族を援助する際の倫理的課題について考えることができる。 6. 看護学生としての責任ある行動をとり、主体的に学習に取り組むことができる。 		
評価	各実習目標の達成度(目標 1・4・5 : 各 10%、目標 2 : 35%、目標 3 : 20%、目標 6 : 15%) をルーブリック評価表を用いて評価する。評価対象は、実習における態度・準備状況、指導に対する応答状況、受持ち高齢者への看護実践状況、カンファレンス参加状況、記録物およびレポートの記載内容である。ルーブリック評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	老年看護方法の単位を修得していることが、本実習の履修要件となる。 原則として遅刻、欠席、早退を認めない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前連絡する。 実習要項は別途、配付する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3～5名の学生グループで、病院または介護老人保健施設において3週間実習する。 2. 原則として1名の高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。 3. 実習施設において、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス等を適宜行い、グループで学びを共有する。 4. 学内実習では、受持ち高齢者のアセスメント、看護計画の立案等について、適宜、個別指導を行う。 5. 実習記録は所定の用紙に記録し、課題レポートとともに、指定された期日までに提出する。
実習期間	9月下旬～翌年1月下旬の期間で3週間で4クールでローテーションする。
実習場所	札幌市内の病院または介護老人保健施設
実習時間	原則、9時～16時とする。ただし、実習施設により変更する場合がある。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助関係の構築 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者やその家族の状況に応じて意図的に援助関係を築く。 2) 高齢者の人生の価値を認め、尊敬の念をもって関わる。 2. 看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の加齢変化と疾患、発達課題、生活習慣、価値観や生活歴の観点から日常生活の状況をアセスメントする。 2) 1) のアセスメントに基づき、必要な健康課題を特定する。 3) 高齢者と家族のこれまでの生活と将来像をふまえて援助の方向性を決定する。 4) 個々の高齢者の強みを活かした看護計画を具体的に立案する。 5) 立案した看護計画に基づいて実践した看護援助を評価して次の計画に反映する。 3. 看護援助の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護援助行為は基本原理・原則に基づいて実施する。 2) 高齢者の身体能力に応じ、安全に配慮した看護援助を実施する。 3) 高齢者の心理的状況に応じ、安楽に看護援助を実施する。 4. 関連職種との連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) チームを構成する職種の役割を理解し、チーム全体が高齢者と家族へより良いケアが提供できるようにチームの一員として相談、調整のための情報交換を行う。 2) 高齢者へのより良いケア提供のために学生自身が実践した家族や多職種間の連携・協働について考察する。 5. 倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者やその家族のプライバシーを守り、倫理的な行動をとる。 2) 看護実践のなかで生じる倫理的課題について倫理原則に照らして考察する。 6. 看護学生としての態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 誠実な態度で対象者やスタッフに接する。 2) 自己の学習課題を明確にし、主体的に学習に取り組む。
------	--